



薪ストーブの適切な使用について

上田市 産業振興部 森林整備課

私たちの健康状態を確認するためには血液検査をしますが、薪ストーブの状態を確認するのは簡単で、煙突を見るだけです。モクモク煙がでていたら不完全燃焼！

化石燃料を使用しない薪ストーブは地球温暖化防止対策として有効ですが、近年、煙や臭い、チェンソーの騒音による苦情が、寄せられるようになりました。

煙突から煙が出ていないか確認して、快適な環境づくりと良好な近隣関係に、ご配慮をお願いします。

- 薪は 1 に乾燥、2 に乾燥です。湿っているとストーブの熱を奪い、煙やスス、タールの発生原因となり百害あって一利なし。
- 焚き付けの際は、太い薪を下にしてその上に細い薪、その上に焚き付けを置き、上から着火することで煙の発生を抑えることができます。
- 適正な燃焼温度であれば煙突から煙は見えません。見える場合は燃焼できるガスが無駄に排出されているということです。炉内温度は最低でも 350℃（表面温度計で 200℃）以上にしましょう。大きすぎたり多すぎる薪を入れると燃焼バランスが崩れ、不完全燃焼の原因となります。（焚き方については取扱説明書を確認しましょう。ネットにも多くの情報があります。）
- 空気量を適正に調整してください。薪を節約しようと空気を絞りすぎると炉内温度が下がり、煙発生の原因になります。
- 家庭ごみの焼却は禁止されています。また接着剤や塗料がついた合板等は、悪臭発生の原因となるため使用しないでください。
- ストーブの保守点検、煙突掃除を定期的に行い、煙や臭いが気になる場合は、販売業者や施工業者に相談してください。
- 薪づくりの際にチェンソーを使用する場合は、使用時間・場所に十分配慮してください。

煙、臭い、騒音が周辺の迷惑になっていないか、常に気配りをお願いします。

お問い合わせ先：森林整備課 電話 23-5124(直通)